



January 2018

**好評発売中!!**

【経済学、経済理論】

📖 ノーベル経済学賞受賞者トーマス・サージェント教授も絶賛！

**西村清彦、尾崎裕之著**

**悲観主義と楽観主義の経済学**

**－ナイトの不確実性理論とその応用－**

**Economics of Pessimism and Optimism:**

**Theory of Knightian Uncertainty and Its Applications.**

Nishimura, Kiyohiko G. / Ozaki, Hiroyuki, Economics of Pessimism and Optimism: Theory of Knightian Uncertainty and Its Applications. 348 pp. 2017 (Springer, GW) <638-317>  
 ISBN 978-4-431-55901-6 ★hard ¥26,609(税込)

「ナイトの不確実性」とも呼ばれる本源的な不確実性にどう対処すべきか？ギルボアとシュマイドラーによる先駆的な人間行動の数理的モデルから説き起こし、著者自身らによるその経済モデルへの応用・分析までを含む、世界の学界でも最初の学術書。経済学の専門家やポリシー・メイキングに携わる実務家を対象としているが、この分野の初学者にも十分理解できるように、必要な数学も自己完結的に解説するなどの配慮をしている。学部上級・大学院のテキストとしても最適。

➤➤➤➤➤ [目次] <<<<<<<

1. イントロダクション
2. 数学的準備
3. ナイトの不確実性下の意思決定
4. 債券市場の不活性化現象
5. アロー・デブリュー経済における均衡の不決定性
6. 貨幣均衡とその不決定性
7. 動学的最適化
8. 動学的資産価格モデル
9. サーチ行動とナイトの不確実性
10. リアルオプションとナイトの不確実性
11. 流動性選好とナイトの不確実性
12. 悲観と楽観の簡単な公理化モデル：「 $\varepsilon$ -汚染」と「 $\varepsilon$ -熱狂」
13. 予測における永続的な悲観と楽観
14. ナイトの不確実性下の学習行動
15. 今後の研究課題

● 裏面もご覧ください。

☆記載の円価格には、消費税が含まれております。なお価格は版元の原価改定、為替相場の変動により変わる場合がございます。

**FAR EASTERN BOOKSELLERS**  
**KYOKUTO SHOTEN LTD**  
 P.O. Box 72, Kanda, Tokyo 101-8672, JAPAN

☎ 101-8672 東京都千代田区三崎町2-7-10 帝都三崎町ビル ☎ 03(3265)7531 Fax (3556)3761  
 ☎ 530-0051 大阪市北区太融寺町1-17 梅田アスカビル ☎ 06(6362)5515 Fax (6362)8882  
 ☎ 604-0985 京都市中京区麩屋町通丸太町下る 井口ビル ☎ 075(231)2093 Fax (231)3859  
 ☎ 810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-14 小榎ビル ☎ 092(751)6956 Fax (741)0821

URL: <http://www.kyokuto-bk.co.jp> E-mail: [info@kyokuto-bk.co.jp](mailto:info@kyokuto-bk.co.jp)

日本銀行副総裁として、日本の金融政策決定に決定的に関わってきた西村清彦教授が、かくも数理的に厳密な「ペシミズム」(悲観主義)と「オプティミズム」(楽観主義)についての学術書を書かれたということは、ことのほか特筆すべきである。教授は、副総裁時代の経験に基づく強い関心を持って、ベイジアン決定理論を拡張し、「モデル・アンビグニティ」(経済のモデル化には本源的な曖昧さ・不確実さが残ること)を取り入れ、悲観主義と楽観主義について厳密な数理モデル化を行っている。西村教授と共著者の尾崎裕之教授は、この技術的にも精緻な、読者を引きつけて放さない魅力的な本を創りあげた。そこでは「モデル・アンビグニティ」を取り入れた最先端のモデルが、経済学に現れる重要な意思決定問題に応用されている。

トーマス・ジョン・サージェント  
ニューヨーク大学経済学部教授、ノーベル経済学賞(2011年)受賞者



フランク・ナイトが最初に峻別したリスクと不確実性の本質的な違いは、過去数十年間にわたって経済学者の間で大きな関心を惹起してきた。更に十年前の世界金融危機が、この問題の重要性を更にいっそう高めることになったのである。本書において、この厳しい時代に日本銀行副総裁を務めてこられた経済理論家である西村教授と、リスクの存在下における動的意思決定に数々の理論的貢献をしてきた尾崎教授が、「ナイト流不確実性」の数理的定式化を進展させ、更にそれを経済学における政策決定・意思決定問題への応用に結びつけた事は特筆に値する。本書は、大学院課程のための非常に優れた教科書であり、また該当分野を学びたい研究者のための導入書としても有用である。

ホセ・A・シャインクマン  
コロンビア大学経済学部教授、プリンストン大学名誉教授



本書は、最良の経済学というもの稀有な例になっている。基礎の基礎からはじめ、経済理論の数学的・哲学的な骨格を強調し、不確実性のミクロ経済学・マクロ経済学へと筆を進め、今日の経済危機に対する洞察を与えることでその最高潮を迎える本作は、その独創性、深み、そして、視野の広さにおいて際立つ2人の傑出した経済学者による何年にもわたる共同作業の一つの到達点と言って良い。経済理論で構築されたこの知的大伽藍と、2007-2008年の経済危機のような解明すべき現象を前に、本書は「何がいけなかったのか？」と敢然と問う。そして、分析において厳密であるべきことから得られる利益を一切犠牲にすることなく、経済学を如何により良い科学へと進化させていけるのかを示唆しているのである。

イツァーク・ギルボア  
テルアビブ大学経済学部教授、HEC 経営大学院経済学・意思決定科学教授